

令和 6 年度 自己点検・自己評価結果

目 次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	3
(3)	教育活動 作業療法学科.....	5
	理学療法学科.....	8
	看護学科.....	10
	助産学科.....	13
	看護学科通信課程.....	16
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	18
(4)	学修成果 作業療法学科.....	21
	理学療法学科.....	22
	看護学科.....	23
	助産学科.....	24
	看護学科通信課程.....	26
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	27
(5)	学生支援.....	28
(6)	教育環境.....	30
(7)	学生の受入れ募集.....	31
(8)	財務.....	33
(9)	法令等の遵守.....	34
(10)	社会貢献・地域貢献.....	35

令和 6 年度自己点検・自己評価報告書作成に際して

1. 評価担当

①教育理念・目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	法人本部
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

2. 評価数値の意味

- 4 … 適切に対応している。
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

(1) 教育理念・目標

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか）	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	3
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 本校の建学の精神のもと、教育理念・教育目的・教育目標を定めており、医療福祉において社会のニーズに対応できる人材の育成を目指している。また、医療人として求められる専門の知識・技術の教育は勿論、豊かな教養と感性、人間性、社会貢献への使命感を育むことに努めている。
2. 5つの医療職に関する学科を設置しているという特色を活かし、卒業後、即戦力としてチーム医療に貢献できる人材を育成するため、IPE（多職種連携教育）に取り組んでいる。
3. 高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校となることを目指して教育の質の向上に取り組んでいる。また、法人全体の中期ビジョンとそれに基づく単年度の運営目標・計画を定めている。また、ビジョン発表会を実施する事により職員間で共通理解を図り、ビジョンの実現に向けて同じ方法に向いて進むようにしている。
4. 本校の教育理念及び各学科の教育目標・教育内容を本校のホームページやSNSで分かりやすく公開している。また、オープンキャンパスや進学説明会などあらゆる機会に説明している。在校生及びその保護者に対しては、一層、理解に努める必要がある。
5. 関連業界・実習施設等から選出された外部委員を交えた評議員会、教育課程委員会や、実習施設訪問等の機会を通じて得られる意見・情報をもとに方向付け及び見直しを行っている。

【課題】

- 医療関係の各職種において人材の確保が求められているが、高校生の減少傾向が顕著である。
- 高校生・社会人に選ばれる学校になり、医療施設から期待される人材を輩出することで、地域で信頼される学校となることを目指す。
- 医療分野での人材確保という原点に立ち返って、きめ細やかな教育を施せる環境、教育体制を確立していく。

【改善方策等】

- 第二期中期ビジョンで示した「活躍できる人材を社会に輩出することを目指し、学生一人ひとりに寄り添い、将来の仲間として育てるために、教職員が一丸となって取り組む」というミッションを自覚し、具体の各ビジョンの実現を図る。
- 本校の教育活動の大きな特色である「多職種連携教育（IPE）」の内容を充実させる。また、その意義や成果を分析し内容の改善を図るとともに、校外へ積極的に発信していく。
- 学生・保護者に対し、新入生オリエンテーション、MO 後援会、学生や保護者との面談など、あらゆる機会に学校のビジョンや運営方針について周知・理解を図る。
- 高等学校、医療関係施設、行政機関等を訪問し、社会の趨勢、学校へのニーズと要望、諸機関との連携の在り方等の把握を図り、絶えず学校の在り方や方向性を見直す。

(2) 学校運営

Q	評 価 項 目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	4
8	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和 6 年度の取り組みと状況など）】

1. 毎月開催される経営会議・運営会議において、ビジョンの実現や学校運営に関する課題について審議し、その意志に基づいて学校の運営がなされている。
2. 当年度の事業計画は、学則に定めた学校の目的及びそれを達成するための教育目標に基づくものかを精査し理事会・評議員会の承認を得ている。作成した事業計画は年度初めの全体会議で各部署から発表することで職員の共通理解を図っている。
3. 本校の組織運営及び管理は、法人の理事会・評議会のもと、運営会議を議決機関とし意思決定を行っている。また本校の校務分掌組織は規則等において明記されている。
4. 法人本部が所管しており、基準や手続き等を整備して適切に実施している。また、2019 年度より人事考課制度を実施し、組織の活性化を目指した人事考課の機能がより高まってきている。2025 年度からの人事考課制度について見直しを図った。
5. 意思決定のプロセスと仕組みは制度化されており、組織図及び校務分掌によって業務範囲が示されている。また、各学科では教務会議を開催し、学科内役割分担を適切に行い運営に当たっている。
6. 専修学校設置基準及び養成施設指定規則を遵守し運営している。倫理委員会の開催、学生サポートセンターと統括部長、学科長との連携によってコンプライアンス体制を構築している。
また、危機管理体制の強化を図るため、危機管理マニュアルの見直しを行った。
7. 学校のホームページ及び SNS にて、本校の教育活動・運営状況等を社会に対して広く公開している。
また、保護者で組織された後援会が発行している会報において教育活動をはじめとする各種情報を発信している。

8. 学内の情報共有、伝達は「サイボウズ」という情報管理システムにより充実が図られている。学生関係の情報（学籍に関する情報、成績に関する情報など）の一元管理が求められる。

【課題】

- 学生・保護者・関係施設病院・行政機関等にきめ細やかで誠意ある対応を心がけ、本校への信頼、期待、支援に繋げていくこと。
- 共通でありながら学科毎に個別に行っている事務や情報処理について学校全体での共通化を図り、業務の一層の効率化を図ること。

【改善方策等】

- 職員が意欲をもって働き、能力を高めることができ、働き甲斐のある職場になるように、人事考課制度を実践する。改訂された人事考課制度の適切な運用を図る。
- 各職員が第二期ビジョンに沿ったクレド（価値観や行動規範）を持ち、具体的な目標の実現を図ることによって学校の教育力を高める。
- サイボウズの機能をさらに活用し、業務の効率化、軽減化を図ることで、職員が学生の教育やサポートに携われる時間を十分に確保する。
- 学生情報のデータベース化を進め、業務の効率化、情報活用の利便性の向上、セキュリティーの強化を図る。
- 教員のアカデミックキャリアラダーに基づいた取り組みを促進する。また、教員研修を体系化し、キャリアに応じた研修を充実させる。さらに公開授業や授業研究を強化し教員の授業力の向上を図る。
- 職務、授業などにおける部署間、学科間の職員の交流及び協力体制を構築し、学校全体が一つになって一つの方向を向いて仕事ができるようにしていく。

(3) 教育活動 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1.2.

学校の理念に基づき教育課程をデザインしている。また、厚生労働省の認可を受け、その基準を遵守している。同時に、「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定校」の第三者評価を活かした教育課程の編成とその実施方針を策定している。以上のことを学科の土台としつつ、継続してブラッシュアップしている。

3.

カリキュラムは、項目1・2の認可・認定基準を満たしたものとなっている。また、カリキュラムは、教育課程編成委員会等のフィードバック等を受け、学習の手引き及びシラバスに明記している。また、定期的にその内容の見直しを図ることで体系的な授業を展開する工夫を行っている。

4~6.

昨年度に続いて、教育課程編成委員会等のフィードバックを活かしながら業界を巡る動向を適宜把握し、学生のキャリア形成を育むような授業内容を検討する学科会議を定期的に開催した。

各授業開始時にはオリエンテーションを必須とし、①シラバス②科目の位置付け③目的④到達目標⑤成績評価の方法と項目⑥授業計画等について説明を行った。さらに職業教育を最重視する観点から、

学内外の演習・実習の時間数を可能な限り確保し、展開方法を工夫しながら実施した。また、学外実習（臨床実習）を実施（3・4年次）、実習指導者会議にて意見交換会を実施した。

7. 昨年度に続いて、学生対象の授業アンケートが実施された。アンケート結果を教員へフィードバックし、授業や個別面接の質を上げることを目的とした定期的な学科ミーティングや学科内授業参観で、教員間の相互フィードバックの機会を継続して設けた。

8. 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会等にて、卒業生や関連分野業界である病院・施設など外部関係者から評価を受け、その結果を学科運営と職業教育に取り入れている。

9. 成績評価ならびに単位認定・卒業認定は「学則」と「細則」に従い適切に行った。また、授業開始時に学生に対し評価・認定がどのような手続きの中で行われることを周知した。

10. 資格取得に向け受験対策授業や模擬試験等を計画的に実施した。

令和 6 年度も学校冬期休業中に教室を一部開放し、教員が分担出勤してサポートしながら、国家試験対策を行った。

11～14.

「学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育み」を実現出来る授業展開、及び学生への個別支援力を学科教員の成長テーマとしている。そのための共有スローガンとして「臨床力」「教育力」「地域貢献力」を掲げている。その実現のために、教員としての質の向上（臨床・社会活動での臨床能力向上など）を継続した。その結果、学科教員の複数が学会発表や栃木県作業療法士会主催の講習会講師などの成果を上げることができた。その他、関連専門職の動向を適宜把握しながら、各々の臨床能力向上のための研鑽内容を、学科会議とは別に時間を設け定期的に共有するよう努めた（学習会の開催）。同時に、対外的な働きかけとして（一社）栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を開催した。

【課題】

1. 「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応するため、臨床実習先の指導者との連携が一番の課題である。同時に「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」の三つの柱を組み合わせた授業展開を図りつつ、学生個々の臨床基礎力を底上げすることが継続しての課題である。

2. 次期指定規則改正に付帯する課題として「客観的臨床能力試験（OSCE）」および「共用試験」の準備が挙げられる。

【改善方策等】

（１）（一社）栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を継続開催し臨床実習指導者とのつながりを密にしていく。

（２）（１）の継続開催を通して教育基準を満たしつつ臨床現場が求める課題をより明確にし、教員一人ひとりと臨床実習指導者、ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の関係施設等や業界団体等と具体的に共有する。

（３）（２）で共有した課題に対して、その解決のための教育方法のさらなる工夫（「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」「客観的臨床能力試験（OSCE）」等々）や教材の開発などをより体系的に進め指定規則改定に向けた準備が課題である。

（４）（３）の課題解決のためのロード・マップを作成し、定期的なミーティング（カリキュラムミーティング・授業内容検討会）をそれぞれ月１回程度実施する。また、令和７年度以降はキャリアラダー制度に則り他学科教員にも授業参観してもらい相互フードバックの機会を設けていきたい。

(3) 教育活動 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程編成委員会および指定規則に基き策定されている
2. 学習の手引、シラバスに明記されている
3. 指定規則に基づき編成されている
4. 職業実践として学外実習が設定されており、適切に指導者へフィードバックされている
5. 学外実習に伴い、実習指導者と意見交換し実施されている
6. 学外実習が実施（3・4年次）されている
7. すべての教科でアンケートが実施されている
8. リハビリテーション教育評価機構の評価を受けている（2023年度に評価を実施し 2024～2028 にかけての認証を受けた）
9. 学習の手引、シラバスに明記されている
10. 授業において国家試験に対応したコアカリキュラムに基づく編成がされている
11. 要件を備えた教員を確保している
12. 関連分野の職能団体と関連の深い教員を確保している
13. キャリアラダーに基づく実施が予定されている

【課題】

基本的な教育活動に関する対応は、例年通り適切に運用されていると自己評価する。

時代の変化や様々な教育背景と経験を持った学生で構成されている集団であるため、専門職教育として業務を踏まえたレディネスやタフネスをトレーニングしていくことへの課題は、適宜関心を持って対応する必要がある。

【改善方策等】

集団全体への対応を決めるために、個別の特性を知ることは重要であると考えられるため、個別の特性や傾向を探ることを、様々なツール（エニアグラム等）を利用している。そのうえで適切な配置や刺激付与を試行し、結果を分析する。

令和6年度より Post OSCE（実習後客観的臨床能力試験）を導入し、実習評価の根拠づけと職業的な対応能力を判断する試みを始めた。今後継続的に結果を分析していく予定である。

(3) 教育活動 看護学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

- 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。教育理念に基づき看護学科の特徴をカリキュラムに反映し、実践している。また、実施も明確に策定し運用している。
- 指定規則および「看護師養成所運営に関するガイドライン」における「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を参考指標としてアドミッションポリシー、ディプロマポリシーを策定し運用している。また、3年間の修業年限で完結できるように学習時間の確保をしている。
- 「看護師養成所運営に関するガイドライン」に沿って、カリキュラムは体系的、段階的に編成され1～5の教育目標が達成できるようにしている。
- コロナ禍以前と同様の対面授業、演習、実習も臨地で実習することができた。しかし、在宅授業の影響からか集中して受講する姿勢が低下していた。その都度、授業の工夫と学生に注意を促している。
- 実習施設、県内外大学との連携は講師派遣や臨床講義、実習依頼、教育課程編成委員会での交流会や情報交換などで、意見をいただき、カリキュラム反映や学生指導に活かすことができるように努めている。

6. 教育課程に基づき、実習を段階的に配置するなど体系的に実施している。令和 6 年度はほとんどの所でインターンシップを経験でき就職活動につながった。令和 6 年度の県外就職者は 5 年度と同じくらいだが、大学病院が 1.3 倍ほど増えた。臨地実習が学生の意識と職業を結びつける役割は大きく、看護師以外の職業に就く学生はいなかった。

7. 全科目の学科試験、レポート評価、実技評価、評価表による評価など多様な評価としている。授業アンケートから課題を講師に返し改善して頂いている。また、講師選定の参考に使っている。教員に関しても個々に結果を踏まえて授業案の工夫に活かしている。

8. 実習病院等の外部関係者から例年同様、対象者とのコミュニケーション、対象者やスタッフとの人間関係構築に課題があると報告を受けている。令和 4 年度からのカリキュラムで、課題を克服できるように組み立てているが、効果があるかは評価しきれていない。教職員からコミュニケーションの発信を強化し、早期に人間関係を構築できるようにしている。

9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定は学則及び学科細則に基づき会議で適正に判定している。全科目の評価方法について確認し、シラバスに明記している。

10. 国家資格取得のため、授業計画も出題基準に応じた組み立てをしている。また、1 年次から一貫した指導体制で補習講義、模擬試験、外部ゼミなど定期的に実施している。全学生が意識する働きかけを行っている。その他、学生 1 人ひとりの学力面・メンタル面のサポートを担当中心に行っている。かつ学習強化者にチューター制をとり密にサポートをしている。

11. クラス運営や講義、学生指導、実習指導など安定して運営できた。教職員の職歴も 3 年目以上になり、経験が蓄積できたことで、学科運営の目標達成に取り組めた。

12. 実習指導は施設と密な連絡をとり、連携強化に努めていることで、協力が得られている。講義に関しても講師を派遣していただき、医療現場の実態に即した教育をお願いしている。

13. 14. 県看護系教員協議会の学生指導、授業案研修、専門領域研究へ参加、オンライン研修で教育方法など、教職員会議で学生指導のあり方など討議を繰り返し、教育力向上に努めた。徐々に現在の学生状況に合わせた講義・実習、生活指導などできてきている。

【課題】

- | |
|--|
| <p>① 強化した指導体制で臨んだが国家資格の取得が全国・県と比較して低かったため、指導のあり方の見直しが必要である。学生自ら学習する姿勢が低かった。</p> <p>② 次年度に向けてオープンキャンパスで医療行為の演習を多く取り入れ興味をそそった。結果、オープンキャンパスからの出願率は向上した。</p> |
|--|

【改善方策等】

- ① 1 年は担任を中心に学習の仕方を説明、グループ学習、必修対策、模擬試験 1 回
2 年生は国家試験問題の解説、模擬試験 2 回の振り返り、深掘り学習
3 年生をチューター制にし、学習指導・情緒のフォローなどを行い学生に安心感を与える。
ショート補講、内部模擬試験、外部模擬試験と深掘り学習、外部補講を実施予定である。
- ② 教職員が統一して一人ひとりに丁寧な説明と指導を行い、学生満足度を上げる。オープンキャンパスはわかりやすくかつ親しみやすい在学生からのプレゼンテーション、他校と違う演習体験、学生広報委員との協働、インスタグラム発信、卒業高校への近況報告、出前講座・職場体験の受け入れなどに取り組む予定である。

(3) 教育活動 助産学科

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則を遵守し、指導要領に沿って策定している。「そばにおいてもらえる助産師」というフレーズを前面に出したことで統一感のある教育課程になっている。
 2. 「看護師等養成所の運営に関するガイドライン」における「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」、また全国助産師教育協議会の示す「ミニマムリクワイアメンツ」を到達レベルの参考指標としている。また、卒業時に求められるレベルを学生にも到達目標として示し、1年間の修業期間の中で効率的に学べるよう工夫している。
 3. 本校の教育理念、助産学科の教育に関する基本的考え方にに基づき系統的な教育課程を編成している。シラバスにより科目ごとの学習目標や位置づけを明確にし、1年間の修業期間により効果的な学習ができるよう心掛けている。
 4. プレ助産学講座の実施により、母性看護学の重要事項を精選し、図示、用語の意味の確認、ワークシート作成、協同学習などを取り入れ助産学への接続を図った。
- 続けて、リアルな対象のイメージ化とスピーディで的確な思考判断ができるよう、「助産過程の展開」科目を基幹に、各期別の科目においても例示や診断ありきの思考の流れを繰り返し訓練した。その上で実習

が始まり、臨床からは昨年度同時期よりも短時間での展開ができていると評価を受けた。学生自身も、学内での訓練が活かして、学内から臨地へのスライドが円滑だった。

5. 年2回開催する臨地実習指導者会議で、本校の教育課程について説明し、意見交換を行っている。また、実習期間内や終了後も施設との対話を行いながら、実習施設ごとの機能や特性を踏まえ、画一的ではなく柔軟に、共に実習をデザインすることで意識の統一を図っている。

6. 助産学実習は分娩介助という医療行為を実践する場であり、対象者の権利を擁護するために、実習開始までの知識・技術の確実な修得を目指し、カリキュラムを展開している。学生が担当する分娩介助件数の平均も減少する中で、教員とのリフレクションを実施し、1例からの学びを広げ深化させられるよう心掛けた。実習開始前には思考判断と技術の学内でのシミュレーション教育の充実にも力を入れ、到達レベルを堅持した。

7. 学校全体で実施する授業アンケートを実施しすべての科目の評価を受けた。結果については学科内で回覧し、課題の共有を図っている。

8. 臨地実習終了時には、実習指導に関するアンケートを実施し、準備、実習内容、教員との連携等について確認を行い、修正が必要な場合は対応している。令和6年度はさらに4.で述べた臨床実践力の向上に力点を置いたため、実習開始時と終了時の学生の変化についてループリック評価表を作成し、指導者から評価を受けた。結果として①態度については実習開始時すでに身についている学生が多い②技術は経験を通して後半になるほど到達レベルが上がる③思考判断については他のカテゴリに比べて成長に時間を要することが明らかになった。

9. 成績評価・単位認定に関しては、看護師養成所指定規則及び本校学則に基づき厳正に実施している。全科目の評価方法について点検し、シラバスに明記している。

10. 資格取得支援については、過去の結果を踏まえ、入学直後から具体的なガイダンスを行い、年間計画を立案して取り組んだ。学生個々の特性を早期に把握し、課題のある学生については、関係を維持しながら支援が受け入れられるよう担当制や、時機を見た介入を行った。

11. 教員間の関係を良好に保ち、やりがいをもって職務に当たれる組織づくりと、離職防止に努めている。役割については円滑な業務遂行を維持できるよう分掌している。常勤・非常勤職員を含め第一線で活躍する人材を講師として確保できるよう努めている。

12. 関連団体（栃木県看護協会、栃木県助産師会、全国助産師教育協議会、助産師学校教務主任会議）と連携し、情報収集や人脈の拡大に努めている。

13. 14.

研修には積極的に参画している。

また、新任教員の教員への適応や教育実践については、きめの細かいサポートを心掛けている。

【課題】

1. さらなる実践力教育方法の検討
2. 今後の学科運営を円滑化するための教員人材確保

【改善方策等】

1. 1) 実習 OSCE を有効化する（フィードバック方法の検討）
2) 共用試験による効果の検証（助産師教育協議会と連携）
2. 適任者の検討とアプローチ

(3) 教育活動 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は指定規則及び指導要領を遵守しており、教育理念に沿った内容になっている。看護学科通信課程の特徴を加味した上で体系的に編成できている。
2. 指定規則および「看護師養成所運営に関するガイドライン」における「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を参考指標としている。また、2年間の修業年限で完結できるように学習時間の確保をしている。
3. 「看護師養成所運営に関するガイドライン」に沿って、カリキュラムを体系的に編成し、教育目標が達成できるように構成している。
4. 学生は、准看護師としての7年以上のキャリアを積んでおり、看護技術はすでに修得している。しかし、准看護師教育においては「科学的思考」「根拠」が十分でないため、その部分が強化できるように実施している。
5. 実習指導者会議や添削教員会議を行い、実習協力施設や添削教員と情報共有を行い、カリキュラムへの反映や学生指導に活かしている。実習だけでなく、臨地での知識を授業にも取り入れるように努めている。

る。また、臨地実習Ⅰ（机上での紙上事例演習）と臨地実習Ⅱ（施設見学実習）を関連付けて、学びが深まるように努めている。

6. 教育課程に基づき、体系的に実施している。実習指導者会議において、学習効果の高い実習となるように実習要項を見直し、実習協力施設との意見交換をした上で臨地実習を実施している。学生が仕事や家庭の両立ができるように計画し、実施している。

7. 令和6年度後期より、学校全体で実施する授業アンケートをもとに、通信課程であることを踏まえた項目を設定し、アンケートを実施した。アンケート結果の活用について学科内で検討し、今後の教育活動に活かしていけるようにしていく。

8. 実習協力施設と年1回以上は実習指導者会議を開催し、意見交換を行っている。添削教員会議も年1回実施しており、メールやLINEも活用し、意見交換がしやすい環境づくりに力を入れている。

9. 成績評価、単位認定、進級、卒業判定は学則及び学科細則に基づき会議で適正に判定している。全科目の評価方法について点検を行い、シラバスに明記している。

10. カリキュラムの中で国家試験も意識した課題集等を作成し、学習効果の向上に努めた。資格取得支援については、入学当初より説明を行い、年間計画を立案して取り組んだ。月1～2回のデイゼミ・ナイトゼミ等、オンラインによる国試対策を行った。学生個々の特性の早期把握に努め、課題のある学生については担任を中心に個々の課題に合わせて介入方法を検討し、実施した。

11. 人材育成目標を学科内で理解を深め、カリキュラムへ反映しながら授業を行っている。また、学科内の教職員が協力し合い、人材育成目標の達成を目指している。

12. 全国通信制看護学校協議会や栃木県はもちろん近隣の県の看護協会等と連携し、常に最新の情報を収集、考察した上で、当学科の特徴に合わせて活用している。

13. 14. 看護学科通信課程の教育活動に活かせる内容の研修を中心に、学校内外の研修について教員間で情報共有し、積極的に参加している。令和6年度から学校全体で教育の質の向上を目標としたアカデミックキャリアラダーが開始され、本学科の教員は全員参加している。さらなる高みを目指して研究授業や研修を行い、各教員の指導力・資質の向上や能力開発に努めている。

【課題】

学生からの授業アンケート結果を分析・考察することで、さらに授業の質の向上を目指す。

【改善方策等】

授業アンケートの活用方法についてさらに検討し、今後の教育活動に活かしていける仕組みを構築する。

(3) 教育活動 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 教育課程は厚生労働省の指定規則に則り、指導要領に沿って策定されている。また、実施方針も明確に策定され運用している。
2. 「歯科衛生学コアカリキュラムの教育内容ガイドライン」に沿って、就業年数に応じた到達目標が定められ、教育理念や社会のニーズに合わせた授業時間数と単位数を設定している。
3. 各学年に明確な到達目標があり、年次ごとに基礎系から、臨床系、そして3年間を通じて主要3科を学ぶ体制ができている。カリキュラムは教育課程編成委員会を開催した際に精査され歯科衛生士としての必要な知識・技能を修得できるものになっている。
4. 歯科医院の実習のみならず、行政や小中学校でも実習を積み、多岐に渡る職場に対応できる歯科衛生士の育成に努めている。大学病院実習の実習時間を増やしていくことが今後の課題。
5. 歯科のメーカーによるセミナーを各学年実施し、多方面の最新の知識と器具機材に触れることができた。職域団体の栃木県歯科衛生士会と綿密に連携を取り、講話をお願いし、学生に帰属意識を持たせることとした。

6. 臨地臨床実習は歯科診療所をはじめ、県内2カ所の大学病院や小山市の歯科教室、小中学校のブラッシング教室、介護施設実習と幅広く行われている。教員は期間中に巡回指導し実習指導者と連携し意見交換をする事で、学生にフィードバックする仕組みができています。
7. 各教科の授業アンケートを行い、学生からの評価を受けている。結果は学科内で共有し授業の改善に努めている。
8. 実習施設を巡回することで、指導者と連携を取るようにしている。教育課程編成委員会は年度内に2回開催し、委員からの評価を受け、改善に努めている。
9. 各教科のシラバスや学則ならびに歯科衛生学科の細則に基づき、明確になっている。判定に関しては成績資料を基に、卒業認定会議、単位判定会議を開き、学校長の認定を受けている。
10. 資格取得に向け、国家試験対策として年次ごとに目標を決め、年間計画に沿って効果的に学習を進めるようにしている。業者模試、外部講師の講座も取り入れ国家試験対策としている。教員も学生に合わせた学習方法で国家試験合格へと導いている。
11. 厚生労働省の要件を満たす教員を配している。また、歯科医師会から派遣いただいている非常勤講師も実践で活躍されている人材となっている。
12. 地元歯科医師会や栃木県歯科衛生士会と連携し、臨床に即した最新の情報や歯科の技術を取り入れている。実習施設や、大学病院からも講師を派遣していただき、多方面の知識の習得に努めている。
13. 全国歯科衛生協議会の研修や、職域団体の研修に積極的に参加し、教員の資質の向上に努めている。それを伝達講習することで、教員間が情報共有するようにしている。
14. 教員間で実習の補助に入り、お互いの授業を見る機会は多いが、研修の場は作ることができず今後の課題である。

【課題】

教員の経験も少しずつ重ねてきていることから、学生指導や、国家試験対策に関しては、より良い対応と、深みのある指導ができつつあると思う。今後多様化する学生の個性を生かしつつ、学校全体のレベルアップに繋がるよう、教員の知見を深め、指導をしていく必要がある。また、全国歯科衛生協議会から出されている教本が順次新しくなっており、新シリーズに即した授業展開をしていく必要がある。

【改善方策等】

学生の特性に関しては、個性と背景をしっかりと把握し根気よく指導していく。多様化が当たり前のようになってくることを理解する。

教員の更なる資質の向上を目指すにあたり、研究授業を計画的に組み、相互の指導力を高めていくこととする。

学生に合わせた国家試験対策を行う必要があるので、年計をしっかりと立てつつ、軌道修正しながら合格へ導く。

(4) 学修成果 作業療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、本人・学生サポートセンター職員・学科教員と連携し目標の達成を図った。その結果、就職希望学生全員が就職した。
2. 資格取得率向上に向け、1年次から4年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を継続した。また、過去の国家試験問題を分析し出題科目毎の学習課題を明確にした上で対策を行った。外部模擬試験も、3回実施し、国家試験本番に配慮した対策の一環として行った。その中で、過去の国家試験対策の結果を詳細に分析し、4年次学生の結果と比較することで、より精度の高い合否の可能性などを把握することが出来るようになった。同時に、個々の学生へのよりの確なフィードバックを行った。
3. 退学人数は昨年度と比べ増加の結果となった。昨年度同様の主担・副担の2教員による学年担当制ならびにキャリアデザイン担当教員を配する中で、学生一人ひとりのキャリアデザイン力とキャリア形成の育みを支援した。特に、定期的な個別面談等の中で、学生個々の課題とストレングスを明確にすることに重点を置いた。同時に、ドロップアウト・リスクの高い学生にキャリアデザイン担当教員が個別サポートを継続した。しかし、結果には反映されず今後の課題となった。
4. 学科独自の卒業生の勉強会をZoomなどの活用により、開催回数は減ったものの継続的に実施できた。
5. 設問4の活動から得られるフィードバック内容を、学科教育活動の改善に活用した。特に、協働しての地域社会への情報発信などを、学科のSNSを活用し行った。

【課題】

学業面だけではなく精神面の課題をもつ学生が増加する中、ドロップアウト・リスクの高い学生に対し、複合的な視点からのサポートを早期に発見し対応し退学率の低減に勤めていく。

【改善方策等】

- (1) 学習面のサポートを重視した支援を、1・2年生の該当学生については特に重点的に行う。
- (2) 心理面のサポートについては、学生の家族をも含め行う。（可能な範囲で医療機関との連携や出身校との連携及び経済的側面へのサポートも必要に応じて対応していく）

(4) 学修成果 理学療法学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 就職率に問題はない
2. 資格取得率の向上に向けた対応は図られており、今年度は長らく国家試験に挑戦（6回）した卒業生が合格に至った
3. 退学率にかかわる学業成績、生活習慣への対応が、学生個人レベルで実施されている。適切な進路に関するアドバイスも含め、対応はされている。しかし学習過程において意欲や自己実現を、資格取得という方向に向け続けることが難しい学生の脱落があるため、効果判定として工夫の余地はある
4. 実習および職能団体の集まりにより、卒業生の状況を把握できている
5. 現状では十分に活用されていると思われる。在校生と卒業生の授業による関わりもできている

【課題】

対策としては取られている状況であるが、結果として得られていない理由として、国家試験合格と退学者の減少は、ともに100%と0%という理想値を掲げざるを得ないことがあると考える。それを目指すことは目標であるが、それには入学からの積み重ねによるところが大きく、4年生からの対応ではそれに適応できたものとそうでないものの差となってしまう。結果として国家試験不合格者と退学者が数名ずつあった。

【改善方策等】

令和6年度に行った国家試験対策として、グループによる全教員対応は、それなりに効果的であったとおもわれ、次年度以降もブラッシュアップして継続していく予定である。生活習慣の作り方も含め全範囲で対応することを基に具体的計画を立てたい。
退学率は学生個人の意欲や興味関心に依存することが多く、具体的対応に苦慮する課題であるが、学業以外の面も併せて、面談を通じて把握し教員間で情報交換しながら対応に努める。

(4) 学修成果 看護学科

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 就職ガイダンスや早目の活動で令和6年度は未定の卒業生はいない。大学病院への就職は多くな
ってきており、昨年比で1.3倍になっている。県外の就職は同様の比率だが埼玉が多く、他、東京・
北海道が出てきている。
2. 3学年に対し、教員が個人担当制で教授、メンタルフォロー、学内補講を追加し、令和5年度よりは
上昇した。
3. 学生から不安の相談を受けたり、励ましたりなど、丁寧に関わったが、6年度は退学者が昨年より
上昇した。理由は学業不良が多く、次に人間関係のトラブルが多かった。
4. 実習病院での卒業生・在校生の評価はおおむね良好であるが、離職が多いのは気になる。社会情勢の
変化か本校の特徴なのか明確な分析はできないが、実習病院に確認する予定である。それ以外の施設等の
評価は十分把握できていない。
5. 上記4の評価からカリキュラムデザインや病院実習の展開に活用している。

【課題】

令和6年度は国家資格取得者率が全国平均より低かった。5年度の反省を踏まえ、20時までホールや
演習室を開放した。学生も直前は真剣に取り組んだが、スイッチが1か月前に入った学生は学習量が
間に合わず、不合格になった学生が多かった。

【改善方策等】

- ① 令和7年度は国家試験対策を全教員、特に担任を主として対策をしていく。
1年は担任を中心に学習の仕方を説明、グループ学習、毎週の課題提出、模擬試験の振り返り
2年生は国家試験問題の解説、模擬試験の振り返り、毎日、学生主体の問題作成
3年生は全員をチューター制にし、学習指導・情緒のフォローなどを行い学生に安心感を与える。
ショート補講、内部模擬試験・外部模擬試験の振り返りと深掘り学習、外部補講
上記内容を実施していく。

(4) 学修成果 助産学科

Q	評 価 項 目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 就職試験の早期化が進んでいる。新卒の学生は、就職活動の経験がないことや、第一希望に就職できない学生がおり、就職試験結果発表後の施設選択、併願検討などで繊細な支援が求められた。
2. 3年連続で全国平均に届かなかったため、オリエンテーションから卒年次以上に合格しやすい機会はないことを力説し、学生の意識を全員合格にセットした。また正答率の分析に学習範囲の焦点化や、伸び悩む学生の特性を把握しながら、伴走型の支援を行った。国家試験3週間前の時点では数名の学生が合格ラインに乗っていない状況だったが、分析を密にし、教職員がそれぞれの役割を明確に、学生から離れない支援を実施したことで受験者全員の合格を達成した。
3. 1年間という年限は余裕がなく、学生にとっての学修上の都度の試練がある。それを乗り越えられるよう、教員全員が情報を共有し、対応できる体制を整え、志向性を保てるよう心をひとつに取り組んだ。
4. 年2回開催する home coming day!が定着し、卒業生の動向を把握する機会となっている。実習施設に就職した卒業生が増えたことから、施設との対話を通じて卒業生の状況は得やすくなっている。就職施設に卒業生の参加を依頼したことで安定的な協力を得られた。
5. 出生数の減少により、就職後の助産師のキャリア形成に変化が生じていることが卒業生の就業状況から伝わってくる。分娩中心という狭義の助産活動にとらわれることなく、助産師の活動について幅広くキャリアを展望できるよう助産学概論などの科目の中で意識づけている。

【課題】

全員の国家試験合格

【改善方策等】

入学時からの支援プログラムの再構築。

1 年間で学ぶ学生にとって国試対策に係る年間スケジュールは自分自身の学びの道を概観し、行動の原動力となるよう内容や伝え方を工夫する。助産学生の学習意欲や職業志向性は高いので、自発的な構えを作るよう関わり、実施状況をモニタリングする。一方で伸び悩む学生については支援ソフトや難易度別問題集などを用いて伸び具合を精密にモニタリングし、タイミングを逃さずに接触し、学習方法、読み取りのクセなどを確認し個別的な深いかかわりを行っていく。

(4) 学修成果 看護学科通信課程

Q	評価項目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	4
2	退学率の低減が図られているか	4
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 今年度の合格率は昨年度より上昇し、全国平均（87.6%）も上回った。8期生の合格率も昨年度より上昇した。本学科の学生は居住地が広範囲であり、仕事等との両立をしているため、まとまった学習時間を確保することが困難である。そのため、Zoomでのダイゼミ・ナイトゼミやYouTubeを活用して頻出問題をテーマにした動画の作成・配信、公式LINEとGoogleフォームを活用しての定期的な国家試験対策問題の配信等を行うことで、学習をサポートしている。
2. 令和6年度は退学者0名、留年者0名であった。担任を中心に個々の状況把握に努め、全教職員で情報共有し、学生支援を行った。
3. 実習協力施設や各県の看護協会との情報共有を行い、卒業生や在校生の活躍や評価の把握に努めているが、卒業生や在校生の在職中の全施設との情報共有まではできていない。
4. 実習協力施設や各県の看護協会との情報共有を行うとともに、パンフレット作成時等に収集した卒業生の声も参考にし、教育活動や国家試験対策等の改善を行っている。しかし、全卒業生を対象にはできていない。

【課題】

資格取得率の向上

【改善方策等】

前年度の成果を踏まえ、年間計画のもとに、全教員で協力し、国家試験対策の充実を図る。また、既卒生に対して、国家試験対策窓口を設けて支援を受けやすくし、資格取得に向けてサポートしていく。

(4) 学修成果 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 就職に関しては、1年次より個々の希望を聞き就職に向けて意識を高めるようにしている。また、学生サポートセンターと連携しキャリアガイダンスを開き、学生の不安を解消し、栃木県歯科衛生士会の会長からも話をしていただき、就職に対して具体的なイメージを持てるようにしている。しかし、資格取得に自信が持てない事を理由に就職に対して前向きになれない学生がいたので、更なる意識づけが必要と考える。
2. 資格取得率向上に向けて、年次ごとに目標を立て対策をしてきた。特に3年次は下位グループに対して、計画的に学内補講を繰り返し行った。業者の模擬試験もより効果が出るように実施し、学生のモチベーションを維持できるよう工夫した。その結果、全国平均を上回る成績となった。
3. 退学者は、全学年を通してゼロという結果となった。各学年の担任が細かく面談し、学生からの不安や不満を聞き、励まし続けたことが良かったと思う。
4. 実習先での卒業生の活躍は把握しており、概ね良好の評価をいただいている。それ以外に関しては状況が把握できていない状況である。
5. 活躍の場が多岐に渡り、多職種と連携することが多くなっていることも踏まえ、今後は歯科以外の職種の講座も入れていく。

【課題】

国家資格取得に関しては、今年度の学生に合わせた対策と対応を学科全体で早期から取り組んでいく。限られた学習スペースの中で、工夫しながら、学校全体をうまく活用していく。
就職に関して、職業の素晴らしさ、資格を持つことの強みを理解させていく。

【改善方策等】

図書室、面談室、3年教室以外でも期間限定で、実験室、実習室、他学年の教室を開放し学習の場を提供する。また、多方面（歯科医院、企業、大学病院、施設等）で活躍する歯科衛生士の講義を取り入れ、将来のイメージを具体的に持たせ、資格取得のモチベーションを上げていく。

(5) 学生支援

Q	評 価 項 目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

- 就職活動支援に必要な専門の人員を配置し、就職支援の年間計画にそって関連する医療系の就職説明会を実施するとともに就職活動に役立つ学科別ガイダンスを早期に実施している。学生一人ひとりの就職希望を聴取し、就職先等の情報提供をおこなうとともに履歴書の書き方指導や模擬面接など丁寧に指導している。また、学生の就職活動の状況を学内で情報共有し連携に努めている。
- 相談室を設置し、専任のカウンセラーを配置している。その他、学生の相談内容の多様化にあわせ、専門の資格をもった職員と学生サポートセンターの職員も相談に応じている。相談室の利用に関して、適宜校内で案内し、相談記録を適切に保存している。
- 日本学生支援機構の奨学金の他に、都道府県の修学資金制度等をはじめとした公的機関の奨学金制度、病院や民間の奨学金制度の紹介・案内及び取次事務を積極的に奨めている。学費納入が困難な学生には分納・延納などで柔軟に対応しているほか、入学金の減免制度、一部学科に関しては社会人経験者の学生向けに教育訓練給付制度も導入している。また、両校とも修学支援制度（給付型奨学金＋授業料等減免）の対象校として認定されている。
- 学校医を選任し、保健室を整備するとともに各号館の窓口に常備薬を置き、AEDを設置している。また、定期健康診断を実施し、有所見者へは適切に対応し、記録を保存している。
- 学生の自治会活動であるスポーツ大会や学校祭の運営にも学校全体で連携を取り支援している。その他、課外活動に対する支援では学生からの要望に応じて対応しており、ボランティアサークルやリハビリテーション学部では自主学習サークルが活動している。
- 遠隔地から修学する学生への生活環境の支援としては、必要に応じて学校近隣のアパートや駐車場の紹介等を行っている。

7. 保護者会組織である MO 後援会の活動を積極的にサポートし、学校の教育活動の情報提供を行っている。また、学生の成績不振、心理面等の問題にあたっては保護者と適切に連携をとって解決に努めている。

8. 卒業後、いつでも就業上の悩みや離職・再就職の相談などに応じるといった支援を行っている。また、国家試験に合格することができなかった学生に対しては、模擬試験受験や国試再受験への助成、図書館開放等の体制を取っている。さらに、同窓会を組織し、卒業後の研究活動に対応すべく医学関連ジャーナルおよび電子書籍などの医療情報を提供。また、卒業生と在校生が交流する機会も設けている。

9. 社会人経験者および社会人学生の学修支援、履修制度の整備として、社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則で定め、適切に運用している。また、経済的な支援環境としては一部学科に限られるが、教育訓練給付金の指定を受けており、給付条件に当てはまる社会人学生が利用できるようになっている。教育的な支援としては、看護通信において授業の補講、国試対策としてナイトゼミをオンラインで定期的実施し、多くの学生が受講している。

10. 栃木県専修学校各種学校連合会主催の進路連絡協議会や研修会等に参加し、高校の教員と情報を共有し、各学科と連携をとりながら学生指導にあたっている。また、近年は早期からのキャリア教育に力を入れており地域の中学校等に積極的に講師として教員を派遣している。

【課題】

保護者会組織である MO 後援会において、保護者への情報提供等をコストや事務の効率化、利便性の面で紙から情報ツールを利用した発信に切り替えた。今後、完全に移行することが課題である。

【改善方策等】

情報ツールへの未登録者へ働きかけ登録を推進し情報提供の迅速化に努めていく。

(6) 教育環境

Q	評 価 項 目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 施設・設備は、現行の教育に対応できるものであり、専門教育に必要な設備・機器は、劣化への対応は勿論の事、社会ニーズや教育内容、教育方法の変化、発展に合わせて更新、改善できるように管理している。

令和6年度は、2号館の雨漏り防止対策のための外壁塗装、内装工事等を行った。また、理学療法学科定員増加に伴う各階改装工事を行い、7階には学生が学習や休憩ができるスペースを確保した。

2. 実習先は、法令の要件を満たし、学科の教育目標を達成するために適した所を第一に考慮し、学生の学習の場として相応しいかどうかを十分に検討して選定し、依頼している。

実習中は、専任教員と実習指導担当教員を実習先に配置、もしくは定期的に訪問し、学生の状況を把握すると共に実習指導者とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている

3. 防災訓練は、法令及び消防計画に基づき毎年1回実施し、消火器・非常ベル等の消防設備は、法令に基づき年に2回の点検を実施している。

なお、今年度は、教職員のみで避難訓練を実施。いかに学生を早く安全に誘導できるかの確認を行った。

4. 危機管理マニュアルをリニューアルし、学生の安全を守る為、出入口に電子施錠を設け関係者以外が入館できない様にした。

【課題】

長年使用している施設が多いことから、場所や状況に合わせて改修・補修の必要があり、施設の状況を見ながら、短期・中期・長期に分け対応していく必要がある。

【改善方策等】

緊急性のある箇所は、早期に改修・補修を進めていく。また、今後中長期的に改修・補修が必要な箇所については、コストを鑑みながら進めていく。

(7) 学生の受入れ募集

Q	評 価 項 目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	3
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 高等学校内ガイダンスに積極的に参加し、希望者に対し教育活動を行っている。高校訪問に関しては年4回実施している。また、入試後や問い合わせがあった際には、臨時訪問も実施し、入試情報等の情報提供に取り組んでいる。
2. 栃木県専修学校各種学校連合会のルールに基づき、願書受付時期の設定や広報活動を行っている。入試区分としてはAO入試、推薦入試、一般入試、社会人入試を実施している。SNSでは入試情報の他、学校行事の様子や学科の魅力発信を行っている。また、オープンキャンパス開催日に参加できない方に向けて個別相談会を実施し、柔軟に対応している。
3. 学校案内及びホームページ等の記載にあたっては、真実を明瞭、公正に記載している。教育成果についても情報公開ページの中で正確に伝えている。また、オープンキャンパス、高等学校内ガイダンス等での募集活動においても、カリキュラム、就職状況等、正確に情報提供を行っている。
4. 全日制課程、通信制課程各学科の学納金は社会情勢や他校の状況等を踏まえて毎年検討を重ねており妥当なものであると考えている。また、金額や活用できる経済的支援等は募集要項、ホームページに明示している。
5. 入学選考基準については学科毎に設定し運用している。入試判定会議では、理事長、校長、統括部長、事務局長、学科長が出席し、それぞれの視点から判定を行い、可否を決定している。
6. AO入試エントリー開始以降、エントリーや出願があった際には随時報告を行い、現在の募集状況の周知を行っている。運営会議では年度初めに定めた目標値と比較した月毎のデータを提示している。

【課題】

2. オープンキャンパスの参加者数は1つの学科を除いて前年度より上回ったが、オープンキャンパスからの出願に関しては、学科によって差がついてしまっており、定員確保できなかった学科は、やはりその出願率が減少している。

【改善方策等】

2. オープンキャンパスからの出願率を上げる方策としては、これまで各学科のオープンキャンパスにおいて効果があったことを全学科で取り組み、また、体験や在校生・教員とのふれあいの時間を増やし満足度を上げることで出願へ繋げる。オープンキャンパスの参加者を増やす方策としては、例年5月以降であった新パンフレットの送付や新ホームページの公開などを4月1日から実施し、また、訪問する高等学校数も56校増加させ、早く、広く情報発信と広報活動を行うことで参加者増へ繋げる。

(8) 財務

Q	評 価 項 目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和 6 年度の取り組みと状況など）】

1. 予算に見合った支出をおこない安定した運営の努力をしている。
2. 予算や収支計画は、妥当に執行されており状況に併せて適正な補正措置を講じている。
3. 定期的な外部監査をおこない指摘事項がある場合には是正措置を講じている。
4. 財務情報をホームページにて公開している。

【課題】

学納金の増減が年度によって異なるため、中長期的に不安定にならぬよう法人として管理を徹底し今後の対策を検討する。

【改善方策等】

学納金等などの安定収入（学生数増）
可能な限りの経費削減

(9) 法令等の遵守

Q	評 価 項 目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 専修学校設置基準及び専修学校の教育に関わる各種の法令を遵守している。また、各学科とも厚生労働省の指定を受ける養成所であることから指定規則並びに指導ガイドラインを遵守した適正な運営をしている。
2. 個人情報については「個人情報保護基本方針」・「個人情報の保護に関する規則」を定めた対策を取っている。
3. 毎年新年度初めに前年度の自己評価を学科・部署ごとに行い、現状や取り組むべき課題等を報告書としてまとめた上で、その年の重点課題・運営方針と併せて教育活動等の学校運営の改善に努めている。
4. 自己評価及び学校関係者評価結果の報告書をはじめとした学校の諸情報は、ホームページの「情報公開」にて公開している。

【課題】

- ・ 附帯事業である看護学科通信課程では、入学条件である准看護師としての看護業務経験が、7年が5年に短縮され（施行期日は令和8年4月1日）。これに伴い、令和7年度に変更申請を予定しており、しっかりと準備する必要がある。
- ・ 令和7年度の8～12月に看護系学科（看護学科、助産学科、看護学科通信課程）については県による指導調査が実施される予定となっている。指定規則、運用ガイドラインを再確認し適性に運用していることを確認する必要がある。

【改善方策等】

- ・ 引き続きコンプライアンスを徹底する。

(10) 社会貢献・地域貢献

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【評価に対する根拠（令和6年度の取り組みと状況など）】

1. 自治体からの依頼による学校施設の貸与および関係協会・団体研修への学校施設・機器備品の貸与を積極的に実施するなどの社会貢献・地域貢献を行っている。また、地域の中学校の職場体験にも学校の教育資源を提供している。さらに、社会問題に対する取り組みとして、節電対策としてのクールビズやウォームビズを導入し、ポスターを掲示して学生・教職員に対し注意喚起を促している。
2. 栃木県障害者スポーツ大会や交通安全週間の街頭指導などのボランティア活動や義援金活動を積極的に支援している。
3. ヘルスコミュニケーション委員会を設置し地域の公開講座への講師派遣や小中学校でのキャリア教育への講師派遣等を積極的に実施している。また、一般教育訓練・専門実践教育訓練の指定認定を受けるなど積極的に制度利用者を受け入れている。

【課題】

学生ボランティア活動に対する支援は学生の学業への影響に配慮し、支障がない範囲でボランティアに関する掲示板を新たに設置し掲示等を行っているが学生の活動推進には至っていない。

【改善方策等】

学生の社会性を育む活動としてボランティア活動は意義のある活動として位置づけるべきであり、地域や身近な活動など、積極的に情報提供を行い、学生の活動状況は常に把握する必要がある。今後、担当窓口を明確にして、ボランティア活動を組織的に支援するとともに活動実績を把握、評価し結果を教職員で共有していく。